傘置場

拝観受付
Please show your tickets.

ここで
拝観券を
お渡し下さい

建物内での携帯電話のご使用
ご遠慮下さいますようお願いします
You are requested to refr
from using portable telepho
in the temple building.

禁煙
三脚使用禁止

石庭拝観入口

方丈内での、
飲み物の持ち
込みは出来ま
せん。
No drinking

段差がありますので
足下にご注意下さい。




AED



龍安寺
方丈
林泉



むかし細川勝元ここに別業をかまへ住せらるゝ時書院より毎朝男山八幡宮を遙拝せんがために庭中に樹を植ず奇石怪礫ばかりにて風光を催す。これを相阿弥の作りし也。名づけて虎の子わたしといふ。洛北名庭の第一なり。後年堺の外の古松高く花て昔の風景変ることなし。

（回禄＝火事）

一庭空曠白砂平頽石誰鋪形勢成宛似昔時渡溪虎分崎両子泛波行

皆川愚










臥龍梅

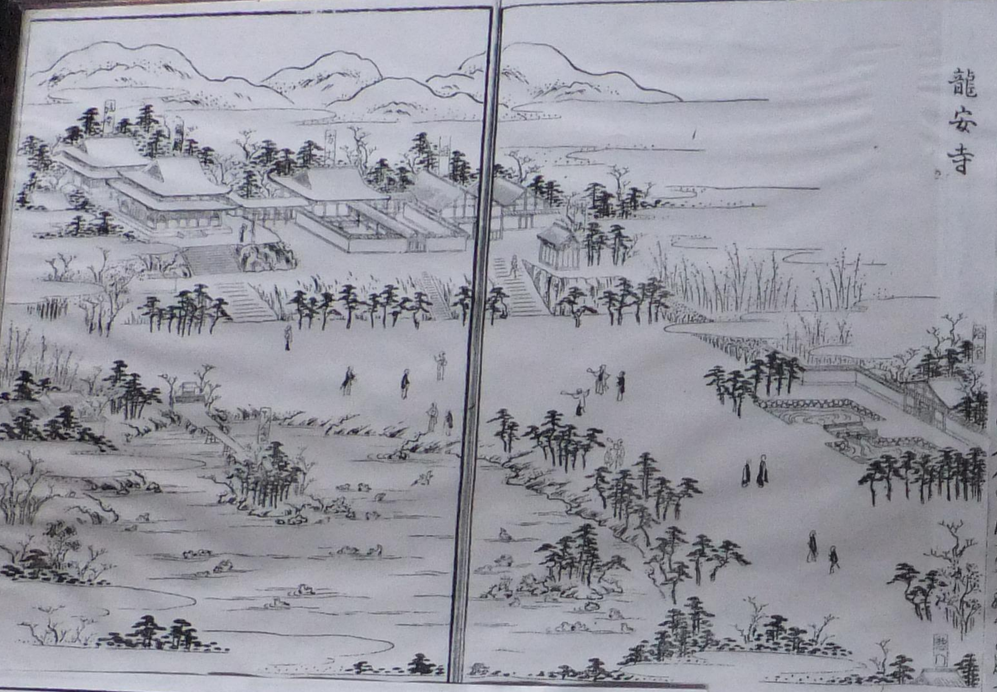
臥龍梅（詳しくは広辞苑を）

皐月鶴翁（明治二年版大成）画

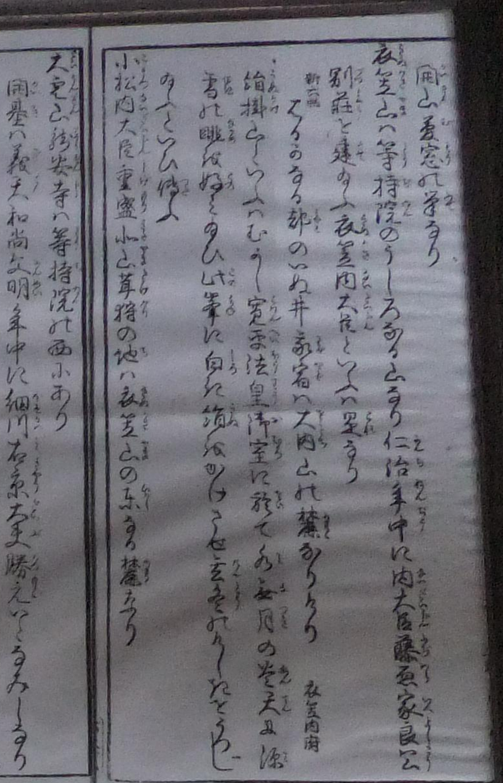


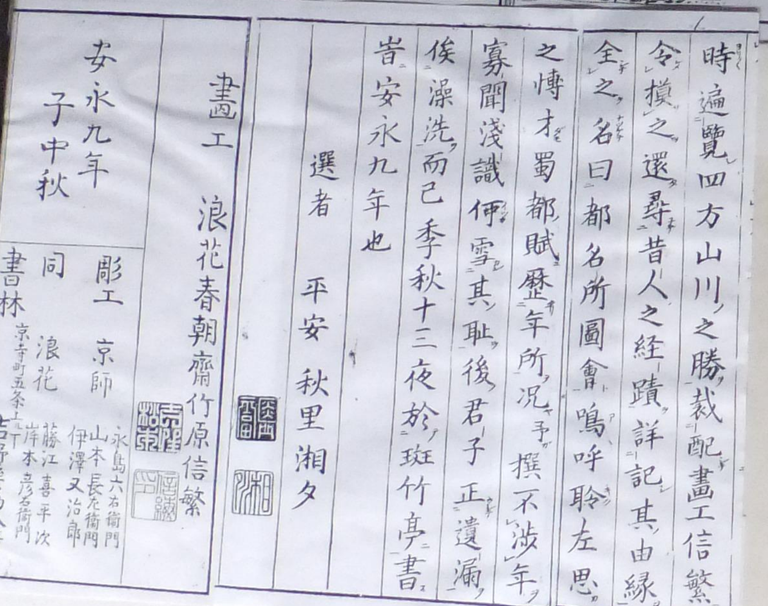


臥龍梅



龍安寺





用山看窓れ筆うり
衣笠山は等持院のうしろなる山なり 仁治年中に内大臣藤原家良公
別荘を建て給ふ 衣笠内大臣といふは是なり
新古今 はるかなる 都のいぬ井 我が宿は 大内山の 林麓なりけり 衣笠内府
綱掛山といふは むかし 寛平法皇 御室に於て 水無月の 炎天に
雪の眺めを好み給ひ 此峯に白き 絹をかけさせ 玄冬の けしきをうつし
給ふといひ傳ふ。
小松内大臣重盛 北山草狩の 地は 衣笠山の東なる 雄尾なり
大雲山 龍安寺は 等持院の 西にあり
開基は義天和尚 文明年中に細川右京大夫勝元 いとなみしなり
初は左大臣宣能公の山荘なり 徳大寺公有公の代 細川勝元 此の地を乞
請られしなり 本堂は釈迦佛 大元童形の像は 東山の檀にあり 恵光禅師
像 細川勝元の像を安ず 堂の内 天井の画は 東福寺 北殿司の筆也 婦龍
方丈は勝元の館書院を 此ていとなみ 庭前の築山 池邊の風色は 勝元の
物数奇なり 此地 北は衣笠の山を 寵 南は 遥に 闔て 一陽来復より 温
気めぐる事早し 池の面には 水鳥むれあつまり 玄冬の 眺をなす。 是を
龍安寺の 鴛鴦と 名に 高し。

時遍覧四方山川之勝裁配畫工信繁
令摸之還尋昔人之紆蹟詳記其由縁
全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思
之博才蜀都賦歴年所況乎撰不渉年
寡聞浅識伊雪其恥後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
皆安永九年也
選者 平安 秋里湘夕

都名所圖會
安永九年（一七八〇年）出版
著者 秋里離島（湘夕子）
寛政年間詳 享和二年・一八〇二年）に
古稀に近い とあるので 一七三〇年代の
生れか。
名は維福 通称 仁左衛門
京都河原院の住職（現 下京区
本屋町五條下ル）嵯峨の 離島に
居住し 離島を 字とした。
本書「都名所圖会」のほか
俊の 著書「名所圖会」は
評判であった。

